仙台厚生病院
内科専門研修プログラム

2027 年度版



1. 理念・使命

領域専門制度の理念（項目 1）【整備基準 1】

1） 本プログラムは、宮城県仙台医療圏の急性期病院である仙台厚生病院を基幹施設として、仙台医療圏のほか大崎・栗原医療圏および石巻・登米・気仙沼医療圏、また東北地方だけでなく、これまで交流を行ってきた特色ある連携施設・特別連携施設との間で協力して内科専門研修を行います。これにより、宮城県の地域医療事情および大都市圏の医療事情の両者を理解することができ、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されることになります。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は、より高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定した研修を行い、内科専門医の育成を行います。

2） 臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性を持って接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶ。その際、単なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

領域専門医の使命（項目 2）【整備基準 2】

1） 宮城県仙台医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1）高い倫理観を持ち、2）最新の標準的医療を実践し、3）安全な医療を心がけ、4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2） 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3） 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4） 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 仙台厚生病院は「選択と集中」の原則のもと、総合病院方式をとらず、心臓血管、呼吸器、消化器の 3 センターに医療資源を集中させ、それぞれのセンターを大型化することで症例も豊富に集まり、最先端の医療提供を可能にしています。また、3 センターを支えるために、放射線科、麻酔・集中治療科、糖尿病代謝内科、病理診断・臨床検査科の中央部門を揃えています。さらに救急を 24 時間体制で積極的に行い、日中は各センターに救急当番を配置し、夜間休日にも 3 センター合せて 6〜7 名の常勤医師が当直しています。これによって、年間約 4,500 例の救急車搬送を含む 6,000 例を超える救急患者を受け入れています。当院の内科系標傍科は循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病代謝内科の 5 つに限られます。しかし、上述の理由で患者数は多く、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症、救急の 10 の領域で入院患者数は充足しており、その他の領域も含めて幅広い領域の疾患を経験できます。
また、「杜の都の次世代型先進病院」をコンセプトとして、令和 6 年 5 月、新病院を新築し移転しました。東北初の全室個室が採用されています。

2) 仙台厚生病院は平成 14 年 11 月に県内 2 番目となる地域医療支援病院の承認を受けて以来、多数の医療機関および 1400 名を超える登録医の先生方との連携を行い、地域医療を大切にしてきました。今回の連携施設、特別連携施設を選択するに当たっては、数ある連携病院の中から、特に平成 23 年の東日本大震災で被害の大きかった岩沼市、石巻市（沿岸地域）にある社会医療法人将道会総合南東北病院、仙石病院および県北沿岸地域から住民の移動が多い大崎市の 2 病院（医療法人永仁会永仁会病院、古川星陵病院）を選択したことも特徴の一つです。

3) 仙台厚生病院内科専門研修プログラムでは、宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院である仙台厚生病院を基幹施設として、近隣医療圏である庄内医療圏などの東北地方のみならず、東京都や大阪府など大都市圏など専攻医の研修の選択肢が広がるような連携施設・特別連携施設を構成し、内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。本プログラムは宮城県内の連携施設、特別連携施設における専門研修を基本としますが、これまで Subspecialty 領域において医師の派遣を含む交流を行ってきた実績を踏まえ、山形県（日本海総合病院、山形県立中央病院）東京都（社会医療法人河北医療財団 河北総合病院、医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院、東京医科大学病院）、福岡県（飯塚病院）、大阪府（耳原総合病院、大阪労災病院）、静岡県（聖隷浜松病院）、沖縄県（沖縄県立中部病院）を加えました。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります。

4) 仙台厚生病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院〜退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

5） 基幹施設である仙台厚生病院は、宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域医療支援病院として地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、他の高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

6） 専攻医 1 年目の 1 年間は原則として基幹施設である仙台厚生病院で循環器内科、呼吸器内科、消化器内科の主要 3 科に所属して専門研修を行います。また、初診を含む総合内科的・Subspecialty 診療科外来、および救急外来、当直を行い、主要 3 科のみならず、多様な疾患群を経験できます。専攻医 1 年修了時には「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 20 疾患群、60 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録できます。

7） 専攻医 2 年目の 1 年間は仙台厚生病院内科研修施設群の連携施設および特別連携施設で研修し、仙台厚生病院で経験できなかった疾患群の専門研修を行います。この研修により専攻医 2 年目修了時には「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（p. 43 別表 1「仙台厚生病院内科専門研修　疾患群・症例・病歴要約の到達目標」参照）。また、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を経験し、実践します。

8） 3 年目の 1 年間は基幹施設である仙台厚生病院において、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科の主要 3 科に再度所属して、不足する疾患群の専門研修を行います。また、カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた研修を開始させます。

9） 基幹施設である仙台厚生病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（p. 43 別表 1「仙台厚生病院内科専門研修　疾患群・症例・病歴要約の到達目標」参照）。

専門研修後の成果（Outcome）（項目 3）【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1）高い倫理観を持ち、2）最新の標準的医療を実践し、3）安全な医療を心がけ、4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

1）病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践する。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践する。

2）地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する。

3）救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践する。

4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じて多様な環境で活躍できる内科専門医を多く輩出することにあります。

仙台厚生病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、仙台医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、仙台厚生病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 12 名とします。

1）仙台厚生病院内科専攻医は現在 3 学年併せて 15 名（令和 8 年 4 月現在）で 1 学年 2～3 名の実績があります。

2）仙台厚生病院の内科指導医数は 21 名（総合内科専門医 21 名）です。また、連携施設を含め、プログラム全体で 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています。

3）仙台厚生病院の剖検体数は 2025 年度 9 体、2024 年度 3 体です。

4）仙台厚生病院において 13 領域のうち 10 領域において 1 学年 12 名に対し十分な症例数があります。また、内分泌、腎臓、神経領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療および連携施設における研修によって 1 学年 12 名に対し十分な症例を経験可能です。

仙台厚生病院における領域別入院患者実数、外来延患者数および疾患群の充足度（按分後）

2020 年実績	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）	疾患群の 充足度
総合内科	1, 069	4, 197	3/3
消化器病	7, 032	85, 183	9/9
循環器	6, 096	71, 237	10/10
内分泌	128	3, 949	3/4
代謝	2, 089	13, 035	5/5
腎臓	1, 045	5, 399	6/7
呼吸器	3, 997	26, 098	8/8

血液	356	4, 112	3/3
神経	699	7, 241	6/9
アレルギー	246	4, 732	2/2
膠原病	157	525	2/2
感染症	196	1, 270	4/4
救急	1, 779	18, 863	4/4

専門研修プログラム全体における領域別入院患者実数および疾患群の充足度（按分後）

領域 （2020 年実績）	入院患者実数 （人/年）	疾患群の 充足度
総合内科	1,069	3/3
消化器病	7,032	9/9
循環器	6,096	10/10
内分泌	128	4/4
代謝	2,089	5/5
腎臓	1,045	7/7
呼吸器	3,997	8/8
血液	356	3/3
神経	699	9/9
アレルギー	246	2/2
膠原病	157	2/2
感染症	196	4/4
救急	1,779	4/4

5）1 学年 12 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年目修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 症例の病歴要約の作成は達成可能です。

6）専攻医 3 年目修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

7）専攻医 2 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門型病院 2 施設、地域中核型病院 4 施設、および地域密着型病院 3 施設、計 9 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病及び類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10、16、32】（p. 43 別表 1「仙台厚生病院内科専門研修　疾患群・症例・病歴要約の到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1 年

カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群以上の症例を経験し、J-OSLER に登録することを目標とする。症例指導医は J-OSLER の登録内容を確認し、専攻医として適切な経験と知識の修得できていることが確認できた場合に承認をする。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導を行う。また、専門研修修了に必要な病歴要約を 10 編以上 J-OSLER に登録し、担当指導医の評価を受ける。

○専門研修（専攻医）2 年

この年次の研修が修了するまでに、カリキュラムに定める 70 疾患のうち、少なくとも通算で 45 疾患群以上の症例を経験し、J-OSLER に登録することを目標とする。

これらの疾患群のうち外来症例については、内科専攻に相応しい症例経験として、プロブレムリストの上位に位置して対応が必要となる場合（単なる投薬のみなどは認めない）に限り、登録が可能である。＊内科専門研修として相応しい入院症例の経験は、DPC 制度における主病名、退院時サマリの主病名、入院時診断名、外来症例でマネジメントに苦慮した症例などにおける病名が想定される。症例指導医は J-OSLER の登録内容を確認し、専攻医の経験と知識が適切であれば承認する。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導を行う。

また、専門研修修了に必要な病歴要約 29 編をすべて登録して担当指導医の評価を受ける。

○専門研修（専攻医）3 年

主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（うち外来症例は最大 20 症例まで）を目標とする。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の症例経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる。症例の内訳は最終頁別表参照）を経験し、登録しなければならない。症例指導医は専攻医として適切な経験と知識の修得ができていると確認できた場合に承認をする。既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。

・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを年 2 回実施して態度を評価します。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを、指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

仙台厚生病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

なお、専攻医研修において、内科領域はその幅の広さと希少疾患の存在から全疾患群を受け持つ機会が困難な場合が想定されます。但し、初期研修中の内科研修での経験も内科専門研修で得られなかった貴重な経験が含まれる場合があり、これらを省察し学習することは専門研修においても有益と考えられます。よって、その専攻医が初期研修中に経験した症例のうち、主担当医として適切な医療を行い、専攻医のレベルと同等以上の適切な考察を行っていると指導医が確認できる場合に限り、最低限の範囲で登録を認めます。

仙台厚生病院内科専門研修　週間スケジュール（例）

循環器内科

	月曜日	火曜日	水曜	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	術前カンファレンス					担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会参加など	
	集中治療室回診	抄読会/症例検討会	内科・外科合同カンファレンス		ケースレビューカンファレンス		
	心臓カテーテル検査・治療/循環器内科外来診療/救急外来診療/入院患者診療など						
午後	心臓カテーテル検査・治療/循環器内科外来診療/救急外来診療/入院患者診療など						
	アンギオカンファレンス						
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/勉強会など						

消化器内科

	月曜日	火曜日	水曜	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	消化器外科合同カンファレンス	ESD症例カンファレンス	ミーティング		上下部内視鏡カンファレンス	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会参加など	
	上部消化管内視鏡						
	上部内視鏡的粘膜下層剥離術						
	逆行性胆管膵管造影	胆膵超音波内視鏡		逆行性胆管膵管造影	小腸ダブルバルーン内視鏡		
	超音波内視鏡下穿刺吸引術　等			超音波内視鏡下穿刺吸引術　等			
	消化器内科外科診療/救急外来診療/入院患者診療など						
午後	消化器内科外科診療/救急外来診療/入院患者診療など						
	下部消化管内視鏡						
	大腸粘膜切除術（ポリペク含む）						
	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術						
				逆行性胆管膵管造影	小腸ダブルバルーン内視鏡		
		抄読会	小腸ダブルバルーン内視鏡				
		薬剤説明会	肝胆膵カンファレンス				
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/勉強会など						

呼吸器内科

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td>抄読会</td><td>呼吸器内科
ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td>呼吸器外科
合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td>呼吸器外科
合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td>病理診断･臨床検査科
合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td rowspan="6" colspan="2">担当患者の病態に応じた
診療／ｵﾝｺｰﾙ／日当直／
講習会･学会参加など</td></tr>
<tr><td></td><td>放射線科
合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">呼吸器内科外来診療／救急外来診療／入院患者診療など</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td colspan="5">呼吸器内科外来診療／救急外来診療／入院患者診療など</td></tr>
<tr><td>気管支鏡検査</td><td>気管支鏡検査</td><td>ｴｺｰｶﾞｲﾄﾞ下
生検</td><td>気管支鏡検査</td><td>気管支鏡検査</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>肺がん
ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td>内科合同
ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td></tr>
<tr><td colspan="6">担当患者の病態に応じた診療／ｵﾝｺｰﾙ／日当直／勉強会など</td></tr>
</table>

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
・専攻医 1 年目から週 1 回以上初診を含む外来および救急外来診察を行います。
・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。
・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても、類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
④ 救命救急センターの内科外来および当直医として内科領域の救急診療の経験を積みます。
⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
⑥ 必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

ⅰ）内科領域の救急対応、ⅱ）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、ⅲ）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、ⅳ）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、ⅴ）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2024 年度実績 43 回）
※年 2 回以上受講します（必須）。
③ CPC（基幹施設 2025 年度実績 5 回）
④ 研修施設群合同カンファレンス（2022 年度：年 2 回開催予定）
⑤ 地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 23 回）
広瀬川内視鏡診断勉強会、臨床胃腸病研究会、泉消化器勉強会、宮城消化管撮影研究会、SKIP Network 世話人講演会、院内感染対策セミナー、仙台厚生病院春季セミナー、循環器疾患臨床勉強会、EVT ワークショップ、心不全治療勉強会、ストラクチャークラブ・ジャパン研究会、心臓センター勉強会など
⑥ JMECC 受講（基幹施設：年 1 回開催、開催実績 9 回：受講者 5 名程度/回）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年目もしくは 2 年目までに 1 回受講します（必須）。
⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています（「研修カリキュラム項目表」参照）。
自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
・専攻医による逆評価を入力して記録します。

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

仙台厚生病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しています（p.24「仙台厚生病院内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である仙台厚生病院医学教育支援室が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めていく姿勢です。この能力は生涯にわたって自己研鑽を積んでいく際に不可欠となります。

仙台厚生病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM;evidence based medicine）。
③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

① 臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
② 後輩専攻医の指導を行う。
③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12、30】

仙台厚生病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。

② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者として 2 件以上行います（必須）。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、仙台厚生病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

仙台厚生病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である仙台厚生病院医学教育支援室が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

また、内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28、29】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。仙台厚生病院内科専門研修施設群は、宮城県仙台医療圏、東京都区西部および区西北部保健医療圏、大崎・栗原医療圏の医療機関から構成されています。

仙台厚生病院内科専門研修施設群

基幹施設

一般財団法人厚生会 仙台厚生病院

連携施設

東北大学病院（高次機能型病院）
独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院（専門型病院）
国家公務員共済組合連合会 東北公済病院（地域中核型病院）
社会医療法人将道会 総合南東北病院（地域中核型病院）
社会医療法人河北医療財団 河北総合病院（地域中核型病院）
医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院（地域中核型病院）
地方独立行政法人　山形県・酒田市病院機構日本海総合病院
東北労災病院
仙台市立病院

株式会社麻生　飯塚病院
東京医科大学病院
石巻赤十字病院
沖縄県立中部病院
耳原総合病院
大阪労災病院
聖隷浜松病院
山形県立中央病院

特別連携施設

医療法人永仁会 永仁会病院（地域密着型病院）
古川星陵病院（地域密着型病院）
医療法人 社団　仙石病院（地域密着型病院）
一般財団法人　広南会　広南病院（専門型病院）

仙台厚生病院は、宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域医療支援病院として地域の病診・病病連携の中核となっています。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験も積め、他の高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能型病院である東北大学病院、専門型病院である独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院、広南病院、地域中核型病院および地域密着型病院である、医療法人永仁会 永仁会病院、古川星陵病院、医療法人 社団　仙石病院、広南病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域中核型病院では、仙台厚生病院と異なる環境で、地域および大都市の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

県外での研修では、病院の研修医用宿舎を利用しての研修となります。また、大崎・栗原医療圏の 3 病院はいずれも仙台厚生病院から公共交通機関または自動車を利用して 1 時間程度の距離であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いですが、当直などを考え、借り上げ住宅を利用しての研修も考慮します。

特別連携施設である医療法人永仁会 永仁会病院、古川星陵病院、医療法人 社団　仙石病院、広南病院での研修は、仙台厚生病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を負います。仙台厚生病院の担当指導医が、永仁会病院、古川星陵病院、医療法人 社団　仙石病院、広南病院の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。また、電話やメールにより容易に指導医と連絡を取れることはもとより、週 1 回程度、基幹病院において専攻医と指導医との間で直接的な指導を行える体制を構築します。

10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

仙台厚生病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

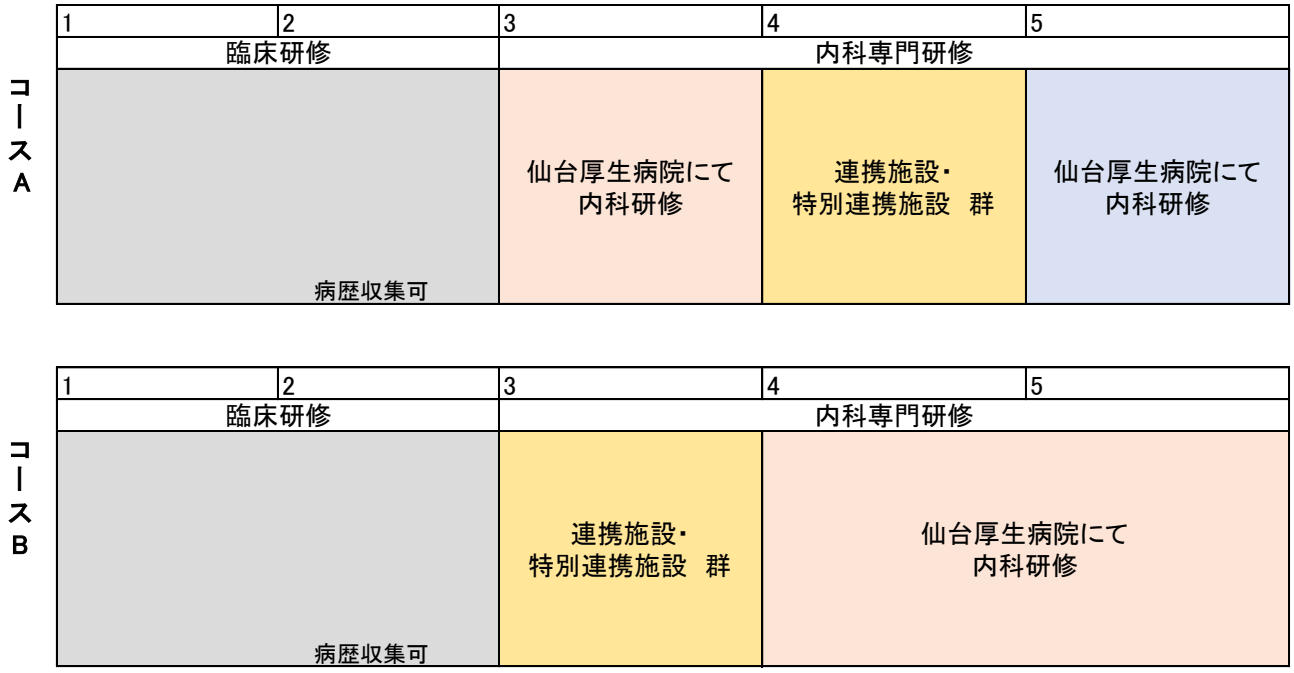
仙台厚生病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11.　内科専門医研修（モデル）【整備基準 16、32】

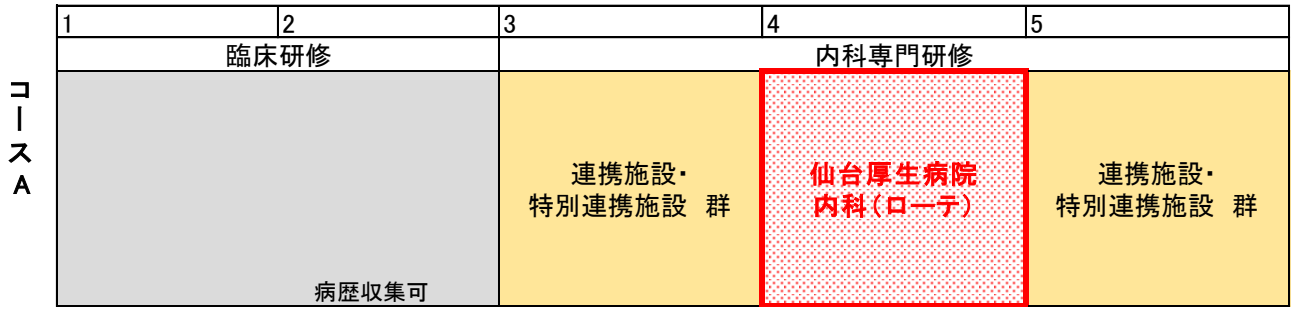
図 1

仙台厚生病院病院内科専門研修プログラム

〈仙台厚生病院を基幹施設とする専攻医〉



〈他の連携施設群を基幹施設とする専攻医〉



基幹施設である仙台厚生病院内科で、専門研修（専攻医）1 年目に循環器、呼吸器、消化器の主要 3 科に所属して専門研修を行い、専門研修（専攻医）2 年目の 1 年間、連携施設および特別連携施設で研修します。

専攻医 1 年目の秋から専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、 2 年目の研修施設を調整し決定します。

病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間は、原則的には基幹施設である仙台厚生病院内科で研修をします。なお、研修達成度によってはSubspecialty研修も可能であり、連携施設、特別連携施設での研修も選択できます（個々人により異なります）。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22、42、44～48、53】

(1) 仙台厚生病院医学教育支援室の役割

・仙台厚生病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。

・仙台厚生病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が臨床研修期間などで経験した疾患について、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。

・3 ヶ月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて随時）、専攻医の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、1 ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。

・医学教育支援室は、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を年 2 回（上期と下期）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技士、事務員などから指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、医学教育支援室もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に対し 1 人の担当指導医（メンター）が仙台厚生病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や医学教育支援室からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指

導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下①～⑥の修了を確認します。

①主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みであること（p.43 別表 1「仙台厚生病院内科専門研修　疾患群・症例・病歴要約の到達目標」参照）。

②29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

③所定の 2 編の学会発表または論文発表

④JMECC 受講

⑤プログラムで定める講習会受講

⑥日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められること

2) 仙台厚生内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 ヶ月前に仙台厚生病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備【整備基準 44～48】

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います【整備基準 46～48】。なお、「仙台厚生病院内科専門研修プログラム専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「仙台厚生病院内科専門研修プログラム指導医マニュアル」【整備基準 45】を別に示します。

13. 専門研修プログラム管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】

1）仙台厚生病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）厚生病院内科専門研修プログラム管理委員会（以下、研修管理委員会）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。研修管理委員会は、プログラム責任者、副責任者、研修管理委員長（ともに内科指導医）、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）、事務局代表者および連携施設担当委員（研修委員会委員長）等で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（p.41「研修管理委員会」参照）。研修管理委員会の事務局を、仙台厚生病院医学教育支援室におきます。
なお、プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長（指導医）が統括します。

ii）仙台厚生病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、年2回開催する（専攻医採用時、修了判定時など）研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、研修管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績
a） 病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d) 1 ヶ月あたり内科外来患者数、e)1 ヶ月あたり内科入院患者数、f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数
a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。

③ 前年度の学術活動
a） 学会発表、b)論文発表

④ 施設状況
a） 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催。

⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1 年目は基幹施設である**仙台厚生**病院の就業環境に、2 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に、専門研修（専攻医）3 年目は原則的に基幹施設である仙台厚生病院就業環境に基づき、就業します（p. 24「仙台厚生病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である仙台厚生病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課職員担当）があります。
- ハラスメント委員会が院内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 病院敷地内に保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、p. 24「仙台厚生病院内科専門研修施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は研修管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1） 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の内科専門研修委員会、および研修管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、仙台厚生病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2） 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、研修管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、研修管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会に相談するものとします。

- 担当指導医、施設の内科専門研修委員会、研修管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、仙台厚生病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して仙台厚生病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医、各施設の内科専門研修委員会、研修管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

仙台厚生病院医学教育支援室と研修管理委員会は、仙台厚生病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて仙台厚生病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

仙台厚生病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、毎年春頃からホームページでの公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、定められた期間において、仙台厚生病院医師募集要項（仙台厚生病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、研修管理委員会において協議の上、採否を決定します。

(問い合わせ先)
仙台厚生病院医学教育支援室
E-mail:kenshu@sendai-kousei-hospital.jp
HP: http://www.sendai-kousei-hospital.jp
仙台厚生病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて仙台厚生病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、研修管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから仙台厚生病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から仙台厚生病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは臨床研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに仙台厚生病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしており、かつ休職期間が 4 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。こ

れを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

19. 専門研修施設群の構成要件、選択、地理的範囲【整備基準 25、26】

1）専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。仙台厚生病院内科専門研修施設群は、宮城県仙台医療圏、東京都（東京都区西部および区西北部保健医療圏）、静岡県（静岡県西部医療圏）、大阪府（大阪府堺市医療圏および堺市 2 次医療圏）、福岡県（飯塚医療圏）、沖縄県（沖縄中部医療圏）、大崎・栗原医療圏の医療機関から構成されています。

仙台厚生病院は、宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域医療支援病院として地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、他の高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能型病院である東北大学病院、専門型病院である独立行政法人地域医療機能推進機構　仙台病院、広南病院、地域中核型病院である国家公務員共済組合連合会　東北公済病院、社会医療法人将道会　総合南東北病院、地域密着型病院である医療法人永仁会　永仁会病院、古川星陵病院、医療法人社団　仙石病院で構成しています。その後、専攻医の研修の幅を広げるために、医師の派遣など様々な交流を行っている県外の病院とも連携を行っています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域中核型病院では、仙台厚生病院と異なる環境で、地域および大都市の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

2）専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- 専攻医 2 年目の 1 年間、連携施設・特別連携施設で研修をします。

3）専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

仙台厚生病院内科専門研修施設群は、宮城県・仙台医療圏、山形県、福岡県、東京都、静岡県、大阪府、沖縄県にある連携施設、大崎・栗原医療圏、石巻医療圏にある特別連携施設から構成されています。

県外の連携病院では各病院の研修医用宿舎を利用しての研修となります。また、大崎医療圏、石巻医療圏の病院はいずれも仙台厚生病院から公共交通機関または自動車を利用して、1 時間程度の距離であり移動や連携に支障をきたす可能性は低いですが、当直などを考え、借り上げ住宅を利用

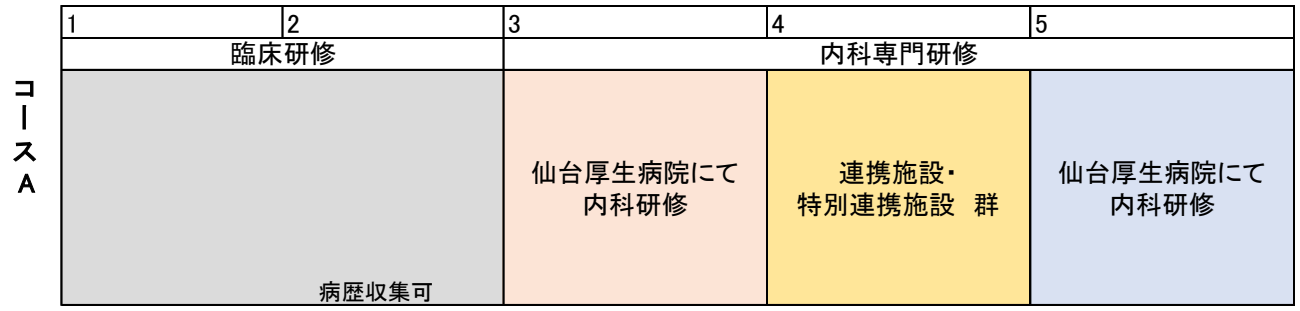
しての研修も考慮します。

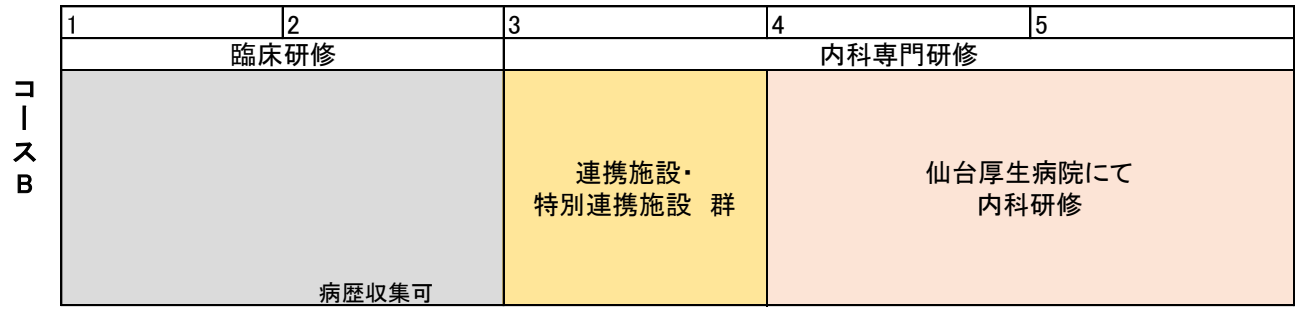
仙台厚生病院内科専門研修
（モデルプログラム）
研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）

図 1

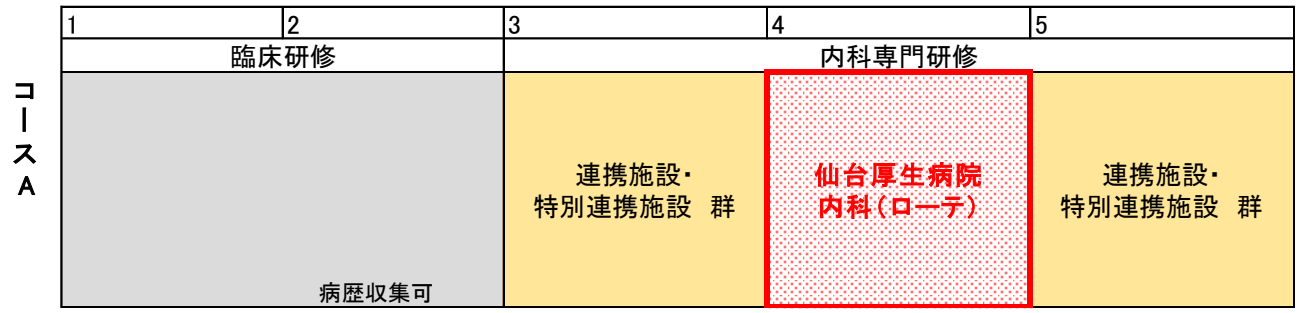
仙台厚生病院病院内科専門研修プログラム

〈仙台厚生病院を基幹施設とする専攻医〉





〈他の連携施設群を基幹施設とする専攻医〉



仙台厚生病院内科専門研修施設群

表 1. 各内科専門研修施設の概要

	病　　院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	仙台厚生病院	409	300	5	21	21	9
連携施設	東北大学病院	1144	295	14	116	87	4
連携施設	独立行政法人地域医療機能 推進機構 仙台病院	384	160	5	11	9	2
連携施設	国家公務員共済組合連合会 東北公済病院	375	55	2	5	5	3
連携施設	社会医療法人将道会 総合南東北病院	271	60	5	7	4	1
連携施設	社会医療法人河北医療財団 河北総合病院	353	203	13	28	24	3
連携施設	医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院	579	231	8	13	7	10
連携施設	地方独立行政法人　山形県・ 酒田市病院機構 日本海総合病院	590	261	5	25	14	8
連携施設	東北労災病院	538	182	9	22	14	8
連携施設	仙台市立病院	525	176	9	25	19	8
連携施設	株式会社麻生 飯塚病院	1,006	561	18	41	44	8
連携施設	東京医科大学	**904**	**258**	**13**	**81**	**79**	**7**
連携施設	耳原総合病院	386	277	8	15	10	8
連携病院	石巻赤十字病院	460	184	8	19	14	8
連携病院	沖縄県立中部病院	559	201	10	24	20	6
連携病院	聖隷浜松病院	750	345	9	19	30	6
連携病院	大阪労災病院	678	205	6	16	26	6
連携病院	山形県立中央病院	609	227	11	36	17	3
特別連携施設	医療法人永仁会 永仁会病院	80	20	3	0	0	0
特別連携施設	古川星陵病院	99	99	3	0	0	0
特別連携施設	医療法人　社団　仙石病院	120	120	2	0	0	0
特別連携施設	広南病院	209	58	2	0	0	0

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病　　院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
仙台厚生病院	○	○	○	△	○	△	○	○	△	○	○	○	○
東北大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○
国家公務員共済組合連合会 東北公済病院	○	○	○	○	○	○	△	×	×	△	△	○	○
社会医療法人将道会 総合南東北病院	○	○	○	△	△	△	△	△	○	△	△	△	○
社会医療法人河北医療財団 河北総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
東北労災病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
仙台市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
株式会社麻生 飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
東京医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
耳原総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	○	○	○
石巻赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
聖隷浜松病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪労災病院	○	○	○	○	○	○	△	×	○	△	△	○	○
山形県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
医療法人永仁会 永仁会病院	○	○	△	×	△	○	△	△	×	△	×	△	○
古川星陵病院	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	×	△	○
医療法人社団　仙石病院	×	○	○	×	×	○	○	×	△	△	×	×	○
広南病院	△	×	△	△	×	×	△	×	○	×	△	△	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました。

〈　○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない　〉

1)専門研修基幹施設

仙台厚生病院

認定基準【整備基準23】 １）専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署（総務部）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･院内保育園があり、平日・祝日保育の他に、週1回のお泊り保育、月2回の土曜日保育もあり、育児期間中でも安心してお仕事ができます。
認定基準【整備基準23】 ２）専門研修プログラムの環境	･指導医は19名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置、既存の医学教育支援室と連携し活動します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績 43回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（広瀬川内視鏡診断勉強会、臨床胃腸病研究会、泉消化器勉強会、宮城消化管撮影研究会、SKIP Network 世話人講演会、院内感染対策セミナー、仙台厚生病院連携セミナー、循環器疾患臨床勉強会、EVT ワークショップ、心不全治療勉強会、ストラクチャークラブ・ジャパン研究会、心臓センター勉強会など；2017年度実績 23 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年1回開催、インストラクター2名在籍、院内開催実績7回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に医学教育支援室が対応します。 ･特別連携施設（永仁会病院、古川星陵病院、仙石病院、広南病院）の専門研修では、電話や週 1 回の仙台厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準【整備基準 23, 31】 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。
認定基準【整備基準23】 ４）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、読影室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2023年度実績10回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019年度実績 3演題）をしています。

指導責任者	本田　芳宏 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台厚生病院は宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり、仙台医療圏および大崎・栗原医療圏、東京都区西部および区西北部保健医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 なお特記すべき内容として、三陸沿岸からの移住者が震災後に非常に増加している大崎・栗原医療圏の地域密着型病院での研修を盛り込んでいます。これらの施設では訪問診療を含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、日本内科学会認定内科医 36 名、内科専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本肝臓内科肝臓専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 153,702 名（1 ヶ月平均）　入院患者 92,130 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設（内科系）	日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会　経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会　下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設 日本肝臓学会認定施設 JCOG 参加施設認定 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会　経カテーテル的大動脈弁置換術指導施設 日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医連携修練施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設 補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設

	日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会 ・日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定の経皮的動脈管閉鎖術施行施設 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会 ・日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定の経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設 日本心血管インターベンション治療学会潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設

2)専門研修連携施設

1. 東北大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･東北大学病院医員（後期研修医）として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります。 ･ハラスメント防止委員会が学内に整備されています。 ･院内に女性医師支援推進室を設置し、女性医師の労働条件や職場環境に関する支援を行っています。 ･敷地内にある院内保育所、病後児保育室を利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･東北大学病院医員（後期研修医）として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります。 ･ハラスメント防止委員会が学内に整備されています。 ･院内に女性医師支援推進室を設置し、女性医師の労働条件や職場環境に関する支援を行っています。 ･近隣に定員 120 名の大規模な院内保育所があり（1991 年 4 月開所）、敷地内にある軽症病児・病後児保育室も利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 116 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 45 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･内科系診療科合同のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 27 回）を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 21 演題）をしています。
指導責任者	青木正志（脳神経内科　科長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　東北大学病院は、特定機能病院として、さらには国の定める臨床研究中核病院としてさまざまな難病の治療や新しい治療法の開発に取り組み、高度かつ最

	先端の医療を実践するために、最新の医療整備を備え、優秀な医療スタッフを揃えた日本を代表する大学病院です。 地域医療の拠点として、宮城県はもとより、東北、北海道、北関東の広域にわたり協力病院があり、優秀な臨床医が地域医療を支えるとともに、多くの若い医師の指導にあたっています。 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また、単に内科医を養成するだけでなく、地域医療における指導的医師、医工学や再生医療などの先進医療に携わる医師、大学院において専門的な学位取得を目指す医師、更には国際社会で活躍する医師等の将来構想を持つ若い医師の支援と育成を目的としています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 87 名、 日本消化器病学会消化器専門医 20 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、 日本循環器学会循環器専門医 16 名、日本内分泌学会専門医 11 名、 日本腎臓病学会専門医 11 名、日本糖尿病学会専門医 11 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 20 名、日本血液学会血液専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 14 名、日本アレルギー学会専門医（内科）7 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本老年学会老年病専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 774 名（内科系・1 日平均）　入院患者 292 名（内科系・1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本心療内科学会専門研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

	日本透析医学会認定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本老年医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2.　独立行政法人地域医療機能推進機構　仙台病院

認定基準 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･ハラスメント,メンタルストレスに対応する職員が配置されています. ･女性専攻医が安心して勤務出来るように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･病院内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 15 名在籍しています. ･医療安全・感染対策研修会を毎年 10 回以上定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･倫理委員会を設置し，必要時に開催しています. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績　1回）し，専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており,専攻医に参加のための時間的余裕を与えます. ・将来的に自院での JMECC 開催を目指していますが,開催できない期間は他院での JMECC 受講の機会を専攻医に与え,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域　13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，膠原病，アレルギー，感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	・倫理委員会が設置されており,定期的に開催されています. ・臨床研究部が存在し,臨床研究を実施できる体制にあります. 日本内科学会講演会あるいは，同地方会に年間で計３演題以上の学会発表を予定しています.　(2025 年度実績　7 題)
指導責任者	土屋　善慎（内科研修委員会委員長） 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO 仙台病院は，日本最大規模の腎センターを有しており，腎疾患および関連する免疫関連疾患，日和見感染症については極めて稀な症例を含め経験が可能です．それ以外の内科系診療科についても専門研修に十分な症例を担当しています．　2021 年 5 月に仙台市泉区紫山へと新築移転いたしました.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　15 名 日本内科学会総合内科専門医　９名 日本腎臓学会認定腎臓専門医　6 名 日本循環器学会循環器専門医　3 名 日本消化器病学会消化器専門医　3 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者　120.7 名（内科のみ、1 日平均）　入院患者　46,551 名（年延数）
経験できる疾患群	総合内科・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓・膠原病の分野を中心に，70 疾患群のうち 66 疾患群について幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，地域に根差した医療，病診・病院連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院（日本内科学会） 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設（日本循環器学会） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設（日本心血管インターベンション治療学会） 日本消化器病学会認定施設（日本消化器病学会） 日本消化器内視鏡学会指導施設（日本消化器内視鏡学会） 日本胆道学会認定指導医制度指導施設（日本胆道学会） 日本腎臓学会研修施設（日本腎臓学会） 日本透析医学会専門医認定施設（日本透析医学会） 日本病院総合診療医学会認定施設 など

3.　国家公務員共済組合連合会　東北公済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国家公務員共済組合連合会東北公済病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンス室が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理1回、利用安全1回（各複数回開催）、感染対策1回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（K-ＣＡＲＥ、2015 年度実績2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器科、循環器、内分泌、代謝および腎臓の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	小針　瑞男 【内科専攻医へのメッセージ】 東北公済病院は、宮城県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。また、単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医５名 日本循環器学会循環器専門医１名

	日本肝臓学会肝臓専門医１名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医３名 日本高血圧学会専門医１名 日本腎臓学会専門医１名 日本透析医学会専門医１名 ほか
外来・入院患者数	外来患者　132，120名のうち内科108名（1日平均） 入院患者　101，017名のうち内科72.7名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設

4.　社会医療法人将道会　総合南東北病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・総合南東北病院常勤医師として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健診センター）があります。 ・ハラスメントに対応する職員が配置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務出来るように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が7名在籍しています。 ・研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理しております。 ・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催 （2025年度実績　医療安全2回（複数回開催）、感染対策2回（複数回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域　13分野のうち、総合内科、消化器、循環器及び神経内科、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療 しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは、同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。（2025年度実績　1題）
指導責任者	密岡幹夫
指導医数 （常勤医）	7名
外来・入院患者数	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある10領域群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、地域に根差した医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 日本内科学会認定教育関連病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設

5.　社会医療法人河北医療財団　河北総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・河北総合病院契約職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・子育てしながら仕事を続けられるように子育て支援が充実しています。院内保育所があります。また病後児保育もあるので安心して働くことができます。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 28 名在籍しています。 ・河北総合病院内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会と連携を図っています。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育・研修部を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 3 回・2022 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ・院内内科合同カンファレンス、研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 6 回・2022 年実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年実績 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育・研修部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な内科剖検（2019 年度 12 体、2020 年 5 体、2021 年 5 体、2022 年 7 体、2023 年 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・内科専攻医に求められる姿勢とは、単に症例を経験し既存の治療法を行うにとどまらず、さらに診断技術を深め、疑問に対して解答を求めていく積極的な姿勢である。この能力は生涯にわたって自己研鑽を続けていくために必須であり、特に医師として初期に経験する研修はその能力を取得するにあたり重要である。

	・内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加する（必須）。 推奨される講演会として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会。 ・経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。可能な限り、筆頭演者または筆頭著者として、学会あるいは論文発表を 2 件以上する ・クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う。 ・内科学に通じる基礎研究を行う。 ・地域における学術活動や学術集会に積極的に参加する。
指導責任者	林　松彦【指導責任者】 河北総合病院は地域の中核病院として、診療所からの紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていますので、さまざまな疾患を経験する機会が非常に多くあります。私達は総合的な内科診断、治療のみならず、患者の生活背景を踏まえた全人的医療ができる医師の育成を行っていきます。それを達成した上で、各サブスペシャリティーにおいて卓越した能力を持つ総合内科医の育成を目指していきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　16 名，日本内科学会総合内科専門医　16 名， 日本消化器病学会専門医 5 名，日本肝臓学会専門医　4 名， 日本循環器学会専門医 11 名，日本内分泌学会専門医　2 名， 日本糖尿病学会専門医　2 名，日本腎臓病学会専門医　5 名， 日本呼吸器学会専門医　1 名，日本血液学会専門医　1 名， 日本神経学会専門医　1 名，日本アレルギー学会専門医　2 名， 日本リウマチ学会専門医　1 名，日本感染症学会専門医 0 名， 日本老年医学会専門医　0 名，ほか.
外来・入院患者数	内科新外来患者数 7,070 人 内科新入院患者数 4,355 人〃
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・ 日本内科学会認定医制度教育病院 ・ 日本脳卒中学会研修教育病院 ・ 日本神経学会専門医制度准教育施設 ・ 日本呼吸器学会認定施設 ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・ 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・ 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 ・ 日本肝臓学会認定施設 ・ 日本腎臓学会研修施設 ・ 日本透析医学会認定施設 ・ 日本リウマチ学会認定教育施設 ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設 ・ 日本アレルギー学会教育施設 ・ 日本緩和医療学会認定研修施設 ・ 日本緩和医療学会認定研修施設

	・日本糖尿病学会認定教育施設

6.　医療法人社団明芳会　板橋中央総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境を整備しています。 ・仙台厚生病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに関しては総務課にて適切に対処します。 ・ハラスメント委員会が仙台厚生病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近隣に院内保育所が整備されており、利用することができます。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績　病診、病病連携カンファランス 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等の内科系学会に年間で計 10 演題以上の学会発表（2014 年度実績 36 演題）を予定しています。
指導責任者	塙平孝夫（呼吸器内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 板橋中央総合病院は東京都の西北部に位置する板橋区を主な診療圏としており、地域の急性期医療を担っています。一般病棟 579 床を有し、年間 7000 件以上の救急搬送の受け入れを行っており、内科の専門研修施設として多くの症例を提供できるものと自負するところです。平成 12 年に初期臨床研修指定病院として認定を受け、既に 120 名以上の修了者を送りだしており、現在も 1 学年 12 名の定員を毎年満たしています。仙台厚生病院の連携施設として当院で研鑽を積んでいただくとともに、当院の初期研修医にもご指導いただけたら幸いです。
指導医数 （常勤医）	新専門医制度における指導医 13 名
外来・入院患者数	年間総入院患者数 12,265 名　／ 年間総外来患者数 322,088 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度教育病 ・日本脳卒中学会認定研修教育病院 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本透析医学会専門医制度認定施設 ・日本不整脈心電学会認定　不整脈専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ・日本アフェレシス学会認定施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本静脈経腸栄養学会・ＮＳＴ稼動施設 ・日本栄養療法推進協議会・ＮＳＴ稼動施設 ・日本感染症学会研修施設 ・日本腎臓学会研修施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 ・日本神経学会専門医制度認定准教育施設 ・日本リウマチ学会教育施設

7.日本海総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所および病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 25 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（庄内医師集談会、庄内地域医療情報ネットワーク研究大会、日本海総合病院循環器連携セミナー、日本海総合病院ＣＰＣ等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に対応します。 ･特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の日本海総合病院での面談・カン

	ファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検(2023 年度 10 体、2024 年度 7 体、2025 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(随時開催)しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表をしています。 （2025 年度実績：日本内科学会 1、内科系学会 12、初期研修医と内科専攻医が筆頭演者の発表数 8)
指導責任者	菅原　重生 【内科専攻医へのメッセージ】 日本海総合病院は山形県庄内地区の中核をなす、旧県立・市立病院が統合再編して発足した病床数 590 床の急性期病院です。北庄内の急性期医療をほとんど一手に引き受けているため、症例数は膨大であり、内科各領域の多くの疾患を経験できます。外来も経験することにより、鑑別診断から治療まで主治医として関わることができます。また高齢者が特に多い地域でもあり、地域連携も充実しており、シームレスな病病連携、病診連携も学ぶことができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本透析医学会透析専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名、 日本心血管インターベンション治療学会心血管インターベンション治療専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本超音波医学会認定超音波専門医 2 名、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 2 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医制度研修プログラム（内科領域）基幹施設 日本呼吸器学会専門医制度呼吸器専門研修プログラム連携施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本精神神経学会専門医研修施設

	日本神経学会専門医制度准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設 など

8. 東北労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･嘱託医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 22 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度 4 回、2024 年度 4 回、2025 年度 4 回） ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（年 2 回予定） ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度 4 回、2024 年度 5 回、2025 年度 5 回） ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（仙台 COPD の会、東北腹部画像診断研究会、東北膵・胆道疾患検討会、東北膵臓研究会、臨床医のための肝炎治療研究会、宮城県の肝疾患を考える若手の会、仙台消化管診断研究会、仙台内視鏡懇話会、仙台いちょう会、若手医師のための心・腎マスター懇話会、Miyagi Rhythm & Device Forum など） ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に総務課が対応します。 ･特別連携施設（広南病院）の専門研修では、電話や週 1 回の東北労災病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ 58 疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。（2023 年度 5 体、2024 年度 9 体、2025 年度 8 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。（2023 年度 10 回、2024 年度 11 回、2025 年度 8 回）

指導責任者	榊原　智博 【内科専攻医へのメッセージ】 　東北労災病院は、宮城県仙台医療圏北部の中心的な急性期病院であり、仙台医療圏・関東地方にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、内科専門医を目指します。臓器別の医療にこだわらない、総合内科医としてふさわしい内科医を養成することを目標としています。自覚があり、かつ責任感のある専攻医を期待しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名 日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本肝臓学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 1 名
外来・入院患者数	病院全体外来患者延数 年 208,164 名　1 か月平均 17,347 名 病院全体入院患者延数 年 136,046 名　1 か月平均 11,337 名 内科系外来患者延数　年 68,099 名　　1 か月平均 5,675 名 内科系入院患者延数　年 62,509 名　　1 か月平均 5,209 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域、58 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 など

9.仙台市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･仙台市立病院の会計年度任用職員または正職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。 ･ハラスメント委員会に関する外部相談窓口を整備しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 25 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者及び委員長（消化器内科部長）※指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年間で医療倫理 1 回 医療安全 10 回　感染対策 2～4 回程度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（10 回程度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（年 6 回開催予定）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。 ･特別連携施設の専門研修の際は、電話や当院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域全 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（年 6 回予定）しています。 ･治験審査委員会を定期的に開催（年 6 回予定）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 6 演題）をしています。

指導責任者	菊地　達也 【内科専攻医へのメッセージ】 　仙台市立病院は，宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり，仙台医療圏及び近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 　当院における研修では，ほぼ全ての内科系領域を幅広く経験することができ，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう，指導に尽力して参ります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名、日本内科学会総合内科専門医　19 名 日本消化器病学会消化器病専門医　5 名、日本循環器学会循環器専門医　9 名日本糖尿病学会専門医　2 名、日本腎臓病学会専門医　1 名 日本肝臓学会専門医　1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　3 名、日本神経学会神経内科専門医　1 名 日本感染症学会専門医　1 名、日本救急医学会救急科専門医　1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 20,285 名（1 ヶ月平均） 入院患者 12,419 名（1 ヶ月平均）　※どちらも延べ人数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	宮城県より地域医療支援病院の承認を受けており，地域完結型医療の推進に努めています。総合サポートセンターを設置しており，地域の医療機関との急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本脈管学会研修指定施設 日本呼吸療法医学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本感染症学会研修施設 など

10. 株式会社麻生　飯塚病院

認定基準 1)専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN、Wi-Fi）があります。 ● 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および看護師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に病児保育室、隣接する施設に 24 時間対応院内託児所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は 41 名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績　医療倫理 5 回、医療安全 9 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2025 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます。 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村　健太

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器病専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 33,100 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,853 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本臨床栄養代謝学会認定稼働施設　　など

11. 東京医科大学病院

認定基準【整備基準24】1）専攻医の環境	･基幹型臨床研修病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･労務環境が保障されています。 ･臨床心理士によるカウンセリングを随時実施しています。 ･ハラスメントに関する委員会が整備されています。 ･休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に保育施設があります。
認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	･指導医 81 名が在籍しています。 ･研修委員会を設置し、基幹施設との連携により専攻医の研修支援体制を構築しています。 ･「医療安全」「感染対策」「個人情報保護」「コンプライアンス」に関する講習会を定期的に開催しています。 ･CPC を定期的に開催しています。 ･JMECC 院内開催を実施しています。
認定基準【整備基準24】3）診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、ほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準24】4）学術活動の環境	･臨床研究が可能な環境が整っています。 ･臨床研究支援センター、治験管理室が設置されています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	専門研修プログラム統括責任者　岩田　英里 【内科専門医へメッセージ】 新宿区西新宿駅に位置する特定機能病院で、内科系診療科（総合診療科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病･代謝･内分泌内科、リウマチ･膠原病内科、神経内科、消化器内科、腎臓内科、高齢診療科、臨床検査医学科、感染症科）および救急領域での研修が可能です。 症例数が豊富で、幅広い症例を経験できます。最新治療や設備のもと、内科専門医として必要な技術を習得できる環境を提供します。他科との風通しも良く、他職種とのチームワークの良さも特長のひとつです。
指導医数(常勤医)	消化器病学会 41 名、循環器学会 27 名、内分泌学会 11 名、腎臓学会 10 名 呼吸器学会 10 名、血液学会 18 名、神経学会 20 名、アレルギー学会 1 名 リウマチ学会 8 名、感染症学会 14 名、、糖尿病学会 22 名、老年医学会 13 名 肝臓学会 11 名、消化器内視鏡学会 40 名、臨床腫瘍学会 1 名
外来・入院患者数	外来患者数（延患者数）58,052 人/月平均 入院患者数（延患者数）23,977 人/月平均
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます

経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定施設	一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会　家庭医療後期研修プログラム認定施設 一般社団法人日本東洋医学会　研修施設 日本血液学会　専門研修認定施設 公益財団法人日本骨髄バンク　非血縁者間骨髄採取認定施設 一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会　非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 社団法人日本呼吸器学会　認定施設 日本循環器学会　循環器専門医研修施設 日本高血圧学会　研修施設 日本睡眠学会　専門医療機関 日本不整脈心電学会　不整脈専門医研修施設 日本動脈硬化学会　教育病院 日本心血管インターベンション治療学会　潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本循環器学会　経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本心エコー図学会　″認定心エコー図専門医制度研修施設″ 日本不整脈心電学会　パルスフィールドアブレーション実施施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会　カテーテル的大動脈弁置換術（TAVR）専門施設認定 日本心血管インターベンション治療学会　動脈管開存症に対する経皮的動脈管開存閉鎖術実施施設 日本心血管インターベンション治療学会　心房中隔欠損症に対する経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施施設 日本糖尿病学会　教育施設 日本内分泌学会　教育施設 日本肥満学会　肥満症専門病院 日本肝臓学会　認定施設 社団法人日本超音波医学会　超音波専門医研修施設 日本消化器病学会　認定施設 日本膵臓学会　指導施設 日本炎症性腸疾患学会　指導施設 日本腎臓学会　教育施設 日本透析医学会　認定施設 日本病態栄養学会　病態栄養専門医研修認定施設 日本アフェレシス学会　施設認定 日本認知症学会　教育施設 日本臨床検査医学会　認定病院 日本輸血・細胞治療学会　日本輸血・細胞治療学会指定施設 日本輸血・細胞治療学会(技師)　指定施設認定

	社団法人日本感染症学会　研修施設認定証 日本消化器内視鏡学会　指導施設 日本消化管学会　胃腸科指導施設 日本カプセル内視鏡学会　指導施設

12.耳原総合病院

1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室と院内 Wi-Fi を用いたインターネット環境があります。 ･耳原総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。（法人中央労働安全衛生委員会） ･ハラスメント委員会が同仁会本部に整備されています。（法人セクハラ委員会） ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地に近接して院内保育所があり、利用可能です。（月曜～日曜まで対応）
2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 15 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2027 年度開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ･特別連携施設の専門研修では、電話や耳原総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ･学術委員会を設置し、年報、医報の発行を行います。 ･すでにリサーチに取り組んでいる部署のひとつとして、HPH 委員会があり、2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2024 年に国際 HPH カンファレンスでの発表を行っています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 6 演題以上（2025 年度実績 5 演題）の学会発表をしています。

指導責任者	川口真弓
指導医など（常勤医）（2026年4月現在）	日本内科学会指導医15名、日本内科学会総合内科専門医10名 日本消化器病学会専門医4名（指導医1名） 日本循環器学会専門医5名（指導医2名） 日本インターベンション学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名（指導医1名） 日本腎臓病学会専門医2名（指導医2名）ほか
外来・入院患者数（年間）（2025年度実績）	外来患者11,166名（平均延数／月）入院患者11,213名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます

13.石巻赤十字病院

認定基準【整備基準24】1）専攻医の環境	″･医師臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 論文、図書、雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Medical online、医中誌、図書.jp、Nature.com.complete、Springer Link、Medline with Fulltext Ultimate）が利用できます。 ･石巻赤十字病院の常勤医師として就業し、労務環境が保証されています。 ･院内の職員食堂では日替わり定食・麺類・お弁当等を提供しています。またキッチンカーも敷地内に出店しています。 ･安全衛生委員会およびその下部組織にメンタルヘルス対策室があります。 ･ハラスメント相談員が配置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されています。 ･敷地外に院内保育所があり、利用可能です。病児・病後児保育も行っています。

認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	″･指導医は19名在籍しています。（2026年4月現在） ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者兼プログラム管理者：副院長　富永　現）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会と教育研修推進室が設置されています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績　医療倫理2回、医療安全12回、感染対策12回　計26回） ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績7回） ･地域参加型のカンファレンス（石巻COPDネットワーク講演会、石巻喘息ネットワーク講演会、救急隊と病院スタッフによる合同勉強会、キャンサーボードを定期的に開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の時間的余裕を与えます。（2025年度2回開催） ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会教育研修課が対応します。
認定基準【整備基準24】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。（2025年度実績8体）
認定基準【整備基準24】4）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し定期的に開催しています。（2025年度4回） ･治験、臨床研究センターを設置しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	内科専門研修プログラム責任者：富永　現 【内科専攻医へのメッセージ】 石巻赤十字病院は、宮城県石巻・登米・気仙沼医療圏において中心的な急性期医療と専門的医療を担う地域医療支援病院です。内科領域でも医療圏で高度急性期医療や専門的医療を要する患者が集中し専攻医は上級医の指導のもと豊富で多彩な症例を経験できます。さらに期間中に専門性の高い他の赤十字グループ病院への院外研修も選択でき、大変魅力的な研修プログラムを用意しています。東日本大震災では被災地区の第一線で活動した災害医療に対する経験豊富な施設であり、災害に関する院内研修会にも力を入れており、緊急災害医療への対応力を磨くことが可能です。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医19名 日本内科学会総合内科専門医17名 日本消化器病学会消化器病専門医5名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医1名 日本糖尿病学会糖尿病専門医1名 日本循環器学会循環器専門医5名 日本腎臓学会腎臓専門医2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名 日本血液学会血液専門医2名 日本神経学会神経内科専門医1名

	日本アレルギー学会専門医（内科）0 名 日本リウマチ学会専門医 0 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名　ほか
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育病院 日本腎臓病学会認定教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本透析医学会教育関連施設（岩手県立中央病院） 日本神経学会准教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設（教育関連施設） 日本感染症学会研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本超音波医学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設指定 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会研修施設（連携施設）

14. 沖縄県立中部病院

1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメントを担当する委員会が沖縄県立中部病院に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。

	･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 24 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：喜舎場朝雄（医療部長），プログラム管理者：尾原晴雄（医療部長兼内科部長）、内科研修委員会委員長：須藤航）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と初期研修、他科のプログラムを含む全体研修全体を管理するハワイ大学中部病院卒後臨床研修プログラムの共同でプログラム運営します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 2 回、医療安全 2 回、2025 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 1 回、医療安全 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（別紙参照）を定期的に開催し，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ･特別連携施設の専門研修では，電話やカンファレンスの配信、インターネットなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 体、2024 年度実績 4 体、2025 年度 6 体）を行っています。
4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ･臨床研究委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 2 回※迅速審査 2025 年度実績 35 件）し、臨床研究内容の審査などをしています。 ･治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 4 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 11 演題、その他内科系学会にて計 5 演題（研修医が筆頭演者または筆頭著者は計 6 件）発表をしています。
指導責任者	喜舎場朝雄 【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄県立中部病院は，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり，歴史的に、連携施設である、沖縄県立北部、宮古、八重山病院と深く連携し、救急、総合内科的研修を中心とした研修を行い、多くの総合内科専門医を輩出してきました（沖縄県の総合内科専門医の約 1/3 弱が当院での初期、または後期研修経験者です）。「Specialist である前に良き generalist であれ」を合言葉に、内科専攻医を育てます。幅広く内科全般を学びたい研修医に適

	した病院です。
指導医など（常勤医）（2026 年 4 月 1 日現在）	日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名，認定内科医 24 名 内科専門医 2 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本肝臓学会専門医 1 名,日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 5 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 5 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本臨床腫瘍学会 3 名，日本救急医学会救急科専門医 6 名ほか
外来・入院患者数（年間）（2025 年度実績）	外来患者 5,279 名（1 ヶ月平均）入院患者 533 名（1 ヶ月平均）内科のみの人数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

15. 聖隷浜松病院

認定基準【整備基準 24】1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･聖隷浜松病院医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（聖隷福祉事業団本部に委員会）があ ります。 ･ハラスメントに関する相談・苦情受付体制は聖隷福祉事業団本部に事務局、施 設に担当窓口が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されています。 ･隣接敷地外に院内保育園があり、利用可能です。

認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	･指導医 49 名が在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会［統括責任者（副院長・循環器科診療部長），プログラム管理者（総合診療内科主任医長）（ともに指導医）；基幹施設，連携施設に設置されている研修管理委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会を設置し，設置済の人材育成センターとともに，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を e-ラーニングにて開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．また，日本救急医学会認定 ICLS コース，AHA 認定 ACLS コースなども受講可能です. ･日本専門医機構による施設実地調査に人材育成センターが対応します. ･特別連携施設の浜松市国民健康保険佐久間病院での専門研修では，メールや電話で指導医がその施設での研修指導を行います．特別連携施設の坂の上ファミリークリニック/坂の上在宅医療支援医院での専門研修では，電話や 2 週 1 回程度で聖隷浜松病院での面談や基幹施設でのカンファレンスへの参加などにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準【整備基準24】3）診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）を研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2023 年 12 体，2024 年 13 体，2025 年 10 体）を行っています.
認定基準【整備基準24】4）学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室やインターネット環境(電子ジャーナル)などを整備しています. ･学術広報室・フォトセンターがあり，学会ポスター作成の支援が受けられます. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 7 回）しています. ･臨床研究管理センターを設置し，定期的に臨床研究審査委員会を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会（2025 年度実績 2 演題）ならびにサブスペシャルティ学会での学会発表を含めると年間計 10 演題以上行っています. 浜松医科大学社会人大学院に入学が可能であり，研究活動を行うことができます.
指導責任者	杉浦　亮（循環器科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　聖隷浜松病院は，急性期病院として，高度な先進医療を提供するとともに，豊富な症例や指導者により，多く人材の育成を行っています．また地域の病院や開業医と病病・病診連携を行い，さらに聖隷三方原病院という系列病院や遠州病院いう地域の拠点病院と連携することで，地域医療の充実を図っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に地域の医療機関が連携し，内科専門医を育成するものです．聖隷浜松病院の理念である患者本位の医療サービスを学び，安全な医療や高度医療に触れることで，単に内科専門

	医を養成するだけでなく，より質の高い医療を提供できる内科医の育成を図ります．さらに，多くのサブスペシャルティの指導医と学ぶことで，内科専門医からサブスペシャルティ専門医への経験を積むことができます．先進的な医学に触れ，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです．
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 50 名，日本内科学会総合内科専門医 31 名 日本消化器病学会消化器病専門医 10 名，日本消化器病学会指導医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本呼吸器学会指導医 4 名 日本血液学会血液専門医 3 名，日本血液学会指導医 2 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名，日本内分泌学会指導医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名，日本糖尿病学会研修指導医 1 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名，日本腎臓病学会指導医 2 名， 日本肝臓学会肝臓専門医 4 名，日本肝臓学会指導医 1 名， 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）2 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本神経学会指導医 3 名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名，日本リウマチ学会指導医 1 名， その他：（日本救急医学会救急科専門医，日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医など幅広く在籍しています．）
外来・入院患者数	外来患者　1,644 名（1 日平均）　入院患者　664 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定施設	日本神経学会認定医教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

	日本心血管インターベンション学会認定研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本高血圧学会専門医認定施設 不整脈専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本てんかん学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本臨床薬理学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など

16. 大阪労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・臨床検査科部長）、プログラム管理者（特任院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2025年度6体、2024年度実績7体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績6回）しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2025年度実績11回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2025年度実績19演題）をしています。
指導責任者	山内　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医16名、日本消化器病学会消化器指導医9名、日本内分泌学会指導医3名、日本人間ドック学会指導医1名、日本糖尿病学会指導医3名、日本腎臓学会指導医3名、日本老年医学会指導医1名、日本消化器内視鏡学会指導医5名、日本超音波医学会指導医1名、日本高血圧学会指導医1名、日本肝臓学会指導医6名、日本透析医学会指導医3名、日本心血管インターベンション治療学会指導医1名、日本神経学会神経内科指導医1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者32,880名（1ヶ月平均）　入院患者16,776名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

17. 山形県立中央病院

認定基準【整備基準24】1）専攻医の環境	・医師臨床研修制度：基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・山形県の有期限常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に 24 時間 365 日、利用可能な院内保育所があり、日中のみ病児・病後児保育もできます。
認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 36 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（仮称）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専門研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（AOYAGI メディカルカンファレンス（地域連携）、公開クリニカルパス、感染対策合同カンファレンス、救急関係症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を予定しており、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（仮称）が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回に院内で行う面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準【整備基準24】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（過去３年の年間平均 4.3 体）を行っています。
認定基準【整備基準24】4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表（2025 年実績 4 演題）をしています。

指導責任者	髙橋　克明（教育研修部副部長）
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医　2 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	R7 年度実績　【外来】　359 名（1 日平均/内科系 外来患者延数） 【入院】　146 名（1 日平均/内科系 入院患者延数）、 435 名（1 ヶ月平均/ 新入院患者延数）
経験できる疾患群	入院患者及び外来患者とを合わせた診療において、きわめて稀な疾患を除き、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	″日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定医研修施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会認定指導施設、日本膵臓学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本透析医学会認定教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設、日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設、 日本輸血細胞治療学会Ｉ＆Ａ認定施設、日本リウマチ学会教育施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設 日本消化器集団検診学会認定指導施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会認定医制度教育施設、日本感染症学会認定研修施設 日本胃癌学会認定施設Ａ、など″

3）専門研修特別連携施設

1.　医療法人永仁会　永仁会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な医局図書およびインターネット環境があります。 ・永仁会病院の勤務医として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント問題は、事務長または医療安全管理室長を窓口として対応しております。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室、シャワー室、当直室が整備されております。 ・女性専攻医の子育て支援として保育手当を支給しております。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・研修担当医が基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・一般職員と共通の医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行われる研修施設群合同カンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行われるＣＰＣの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは、基幹施設および大崎市医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設の指導医による研修指導を、電話や週 1 回の基幹施設での面談、カンファレンスを義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書を整備しています。 ・倫理委員会を設置し随時開催（2025 年度 2 回）しています。
指導責任者	宮下祐介 【内科専攻医へのメッセージ】 永仁会病院は、宮城県大崎・栗原二次医療圏の大崎市にあり、昭和 34 年に前身である永野外科医院として開院後、平成 11 年に現在地への新築移転を機に医療法人永仁会 永仁会病院へと名称を改め、今日に至るまで地域に根ざした医療活動を行っています。 消化器疾患および腎臓病・糖尿病等の慢性疾患を対象とした急性期の専門病院として、消化器疾患に対し内視鏡検査及び治療、外科手術、化学療法に取り組み、慢性腎臓病に対しては、進行の抑制並びに透析導入の遅延に努め、60 床の人工透析ベッドを備え日中と夜間に血液浄化のための透析を行なっています。 正しい栄養管理が病気の治癒力を高める事に早くから注目し、ＮＳＴ（栄養サポートチーム）活動により患者様の早期快復に努めているほか、感染対策・医療事故防止に積極的に取り組み、より良い療養環境の提供に努めています。 当院は、仙台厚生病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの特別連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を支援します〃
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 2 名　日本消化器病学会専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名　日本腎臓病学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 2 名　日本静脈経腸栄養学会認定医 1 名 日本外科感染症学会ＩＣＤ認定医 1 名〃
外来・入院患者数	外来患者 3,171 名（1 ヶ月平均）　入院患者 50 名（1 日平均）
病床	80 床（一般病床 80 床）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域のうち、消化器領域 8 疾患群の症例について広く経験することとなります。

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域の一般急性期病床および消化器科疾患という枠組みの中で経験していただきます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、終末期医療を通じ、地域に根ざした医療、病診・病病連携、地域の他事業所ケアマネージャー等との医療介護連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本透析医学会教育関連施設

2.　古川星陵病院/星陵あすか病院

認定基準【整備基準 23】1)専攻医の環境	初期医療研修における地域医療研修施設です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 研修医の為の宿舎（マンション）完備、家具・家電も備えております。 研修期間中は昼食を提供します。ご希望があれば、朝食・夕食も提供します。
認定基準【整備基準 23】2)専門研修プログラムの環境	指導医は施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準【整備基準 23/31】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・循環器・呼吸器・神経（脳外科）・救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、二次救急機関として一般的な疾患が中心となります。
認定基準【整備基準 23】4)学術活動の環境	
指導責任者	小野玲子「内科専攻医へのメッセージ」 古川星陵病院は最新の設備と機器を備えた高度な医療環境を整えた県北地域の中心的な急性期病院です。脳疾患ではガンマナイフによる専門的な治療を行っています。現在は急性期医療だけでなく、訪問診療、外来診療を通して、医療と介護の連携にも力を注いでおります。平成 29 年 5 月からは、療養加療を要する透析施設である星陵あすか病院を開院しております。
指導医数（常勤医）	内科医　5 名　脳神経外科医　4 名
外来・入院患者数	令和元年　外来患者 5,910 名　　入院患者 1,585 名
病床	一般病棟　99 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 分野については、高齢者、慢性長期療養患者の診療を通じて広く経験することになります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療、全身管理、今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	地域の内科病院としての外来診療と訪問診療、それを相互補完する訪問看護、ケアマネージャーとの連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本胸部外科学会認定医（1 名） 日本呼吸器学会認定医（1 名） 日本外科学会認定医（1 名） 日本呼吸器外科学会専門医（1 名） 日本呼吸器学会指導医（1 名） 日本胸部外科学会指導医（1 名）

	日本医師会認定産業医（1 名） 日本脳外科学会専門医（1 名）

3. 仙石病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な医局図書室およびインターネット環境が整ってます。 ・仙石病院の勤務医として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント問題は医療安全管理室長を窓口として対応しております。また、基幹施設と連携し、メンタルストレスに適切に対処します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室、当直室などが整備されてます。また、当院の保育所「ありすの部屋」が使用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器・循環器・代謝・神経（脳外科）・腎臓（泌尿器科）・救急などの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。なお、救急は循環器、神経（脳外）の 2 次救急が中心です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・希望者には日本内科学会東北支部例会参加のための時間的余裕を与えます。
指導責任者	長南明道（院長 消化器内科） 宗久雅人（副院長兼心臓血管センター長　循環器内科） 【内科専攻医へのメッセージ】仙石病院は平成 3 年 11 月に開設した泌尿器科、脳神経外科・心臓血管センターの 3 科を主体とする 120 床の地域密着型の急性期病院です。最新機器を取り揃え 24 時間救急応需の心臓血管センターでは数多くのインターベンション治療と急性期管理など、脳外科では脳神経分野の救急医療と急性期管理など、泌尿器科では人工透析など、さらにはセデーションを用いた消化管内視鏡検査や癌化学療法など特徴的な研修が可能です。また、仙台市内から仙台東部道路（自家用車）、仙石線（電車）、高速バス等で通勤可能です。当院は、仙台厚生病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの特別連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を支援します。
指導医数 （常勤医）	内科医　7 名　脳神経外科医　3 名
外来・入院患者数	令和元年　　外来患者 4,077 名 入院患者 1,927 名
病床	一般病棟　99 床
経験できる疾患群	内科領域 13 分野のうち、循環器・消化器・代謝・神経・腎臓・救急領域などの症例について急性期から慢性期まで広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	・内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。また、冠動脈造影検査、経皮的冠動脈形成術、消化管内視鏡検査・治療、癌化学療法など専門技術も経験できます
経験できる地域医療・診療連携	高齢社会における地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	

4.　広南病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･嘱託医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ･年 1 回、ストレスチェックを全職員に実施しています。 ･ハラスメント対応職員が指定されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室、更衣室を準備しています。 ・近隣に提携している民間保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・当院に臨床研修指導医は不在であり、当院での研修期間中は基幹施設の指導医から電話や面談・カンファレンスなどにより研修指導を行っていただく機会を準備します。 ・内科指導医が専攻医の研修を管理し、機関施設のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に施設内で開催しており、専攻医にも受講を義務付け、受講時間を確保します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示された内科領域 13 分野のうち神経、救急の分野において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021 年度実績３回）しています。 ･日本内科学会東北地方会参加のための時間的余裕を与えます。
指導責任者	矢澤由加子(診療部長 兼 脳血管内科部長)
指導医数 （常勤医）	
外来・入院患者数	令和 3 年（内科系）　　外来患者 1,155 名 入院患者　54 名
病床	一般病棟　209 床　うち内科系　58 床
経験できる疾患群	内科領域 13 分野のうち神経、救急領域の症例について急性期から慢性期まで幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	神経学的診察、一般内診察、頭部画像診断技術のほか、脳血管撮影や腰椎穿刺、経皮的血栓回収術、頚動脈ステント留置術など専門的技術も経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の高度脳卒中センターとして専門的な医療連携、地域医療を経験できます。また、一般脳神経病院として認知症など高齢者医療を幅広く経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本神経学会専門医制度教育施設

研修管理委員会

（令和８年４月現在）

仙台厚生病院

【委員】

本田 芳宏（プログラム統括責任者、感染分野責任者、名誉院長）
矢満田　慎介（副プログラム責任者、研修管理委員長、医学教育支援室室長、
呼吸器内科主任部長）
本多 卓（副プログラム責任者、救急分野責任者、循環器内科科長代行）
菅原 俊一（名誉院長、呼吸器内科主任部長）
多田　憲生（循環器分野責任者、循環器内科科長）
山下　賢之介（循環器内科分野副責任者、不整脈科科長）
木村　雄一郎（呼吸器分野責任者、呼吸器内科科長）
松田　知己（消化器分野責任者、消化器内科科長）

小野寺 文江（事務局代表、事務局長）

【事務局】

相澤　和子　（総務部庶務課（医学教育支援室担当））
齋藤　真衣子（総務部庶務課（医学教育支援室担当））

連携施設担当委員

東北大学病院	青木　正志（神経内科科長）
独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院	土屋　善慎（内科研修委員会委員長）
国家公務員共済組合連合会 東北公済病院	小針　瑞男（診療部長）
社会医療法人将道会 総合南東北病院	密岡　幹夫（循環器内科科長）
社会医療法人河北医療財団 河北総合病院	林　松彦（臨床教育・研修部部長）
医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院	塚本　雄介（副院長）
地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院	菅原　重生（副院長）
東北労災病院	榊原　智博（呼吸器内科部長）
仙台市立病院	菊地　達也（消化器内科部長）
株式会社麻生飯塚病院	本村　健太（院長）
東京医科大学病院	四本　美保子（臨床検査医学科准教授）
耳原総合病院	川口　真弓（代謝・膠原病内科部長）
石巻赤十字病院	富永　現（副院長）
沖縄県立中部病院	喜舎場　朝雄（呼吸器内科部長）
聖隷浜松病院	杉浦　亮（循環器科部長）

大阪労災病院	山内　淳（副院長）
山形県立中央病院	髙橋　克明（教育研修部副部長）
医療法人永仁会　永仁会病院	宮下　祐介（院長）
医療法人華桜会　古川星陵病院	小野　玲子（院長）
医療法人社団　仙石病院	長南　明道（院長）
一般財団法人広南会　広南病院	矢澤　由加子（脳血管内科部長）

オブザーバー

内科専攻医代表１	小松　遼介
内科専攻医代表２	竹田　裕己

別表１　仙台厚生病院内科専門研修　疾患群・症例・病歴要約の到達目標」

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群（任意選択含む）	45疾患群（任意選択含む）	20疾患群	29症例（外来は最大7）※3
症例数※5		200以上（外来は最大20）	160以上（外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。